



京田辺市長賞

風に吹かれて (水彩画) / 藤原和利 (城陽市)
日々の散歩道で見かけた風景です。自転車が自動車を描くよりむずかしく感じました。

京田辺市教育委員会賞

三条通り高倉上がる (パステル・水彩画)
/ 岩澤明子 (城陽市)

三条通り回りには、京町家を改修したお店が増えていて、若い人達はお目当てのスイーツショップなどを探し、町歩きを楽しんでいます。作品は2019年頃ですが、最近尋ねてみると、違うお店になっていました。町は時と共に変化しているのですね……。



京田辺芸術家協会賞

極楽鳥花 (油画) / 保手浜道子 (京田辺市)
コロナ禍で閉じていた教室、再開後に取り掛かった作品は熱帯植物園の植物です。熱帯の植物は明るく、描く者に元気をくれる気がします。ちなみに極楽鳥花の花言葉は「輝かしい未来」だそうです。これからも明るく希望を持っていたいものです。



京田辺市文化協会賞

素足がよい (油画) / 橋本和子 (京田辺市)
落葉でフアフア おもわず裸足になってしまった。ガサカサ、ザクザク なんともいえない触感。忘れていた遠い昔、友と遊んだ事を思い出した。

U18 審査員賞

長閑（油画）／竹林知宏（京田辺市）

古い校舎を流れるゆったりとした時間が好きで、それが伝われば良いなと思い制作しました。



講評

市長賞の藤原和利さんの「風に吹かれて」は、水面に残る草をたどって行くと、その先に立ち並ぶ電柱が先を急ぐ。そうした二重の遠近の中を断ち切るかのごとく自転車が横断する一瞬を肌寒そうな空気を背景に描いた。

教育委員会賞の岩澤明子さんの「三条通り高倉上がる」は、京都の弱い光の有り様を的確に表現した作品でおもしろかった。今日の京町家の様子が窺い知れる。

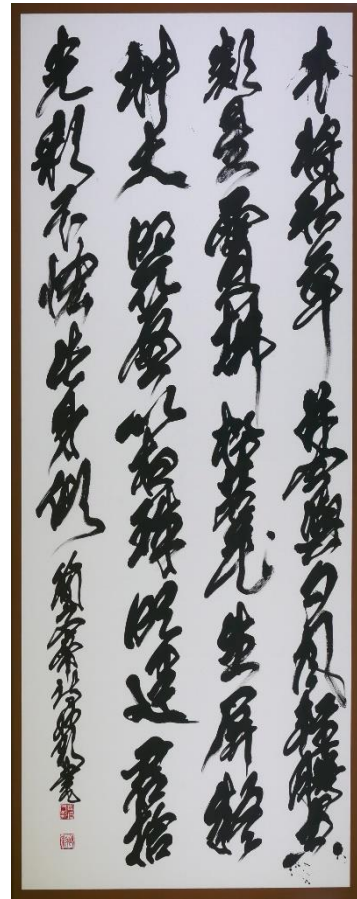
芸術家協会賞の保手浜道子さんの「極楽鳥花」は、熱帯植物園のドームのガラスとそこに育つ極楽鳥花の葉の育成がおもしろかった。ガラス窓から入る光など、これから注意して表現するとよいと思う。

文化協会賞の橋本和子さんの「素足がよい」は、構図がおもしろかった。人体を眼・ひじ・足先と三点で見据えた視点がおもしろい。開かれた両足の先に散らばる落葉は素足の先で音を立てている様子が窺える。

U18 審査員賞の竹林知宏君の「長閑」は、絵に収めるアングルが良い。恐らくこのアングルを持つ建造物達が出会うことで、そこには止まった時間が生み出される。流れてきた時間を止めた校舎が生きている。

審査後、70歳を超えた人達の力作が多いことを知った。また、U18の若い人の作品にも感心せざるをえない。表現に年齢は関係ないのであろう。

審査員 尾崎真人



京田辺市長賞

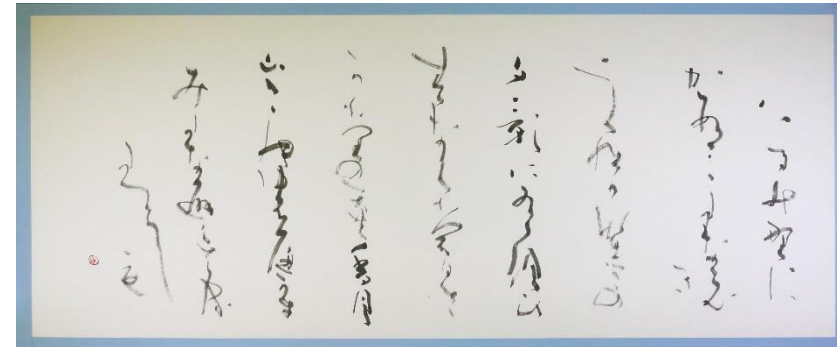
螢／宮垣妙彩（京田辺市）

清代最後の文人といわれる呉昌碩をベースに制作を試みました。連綿を用いた深みのある力強い線質を追求し、自分なりに古典の魅力を取り入れることにこだわった一方で、自己の気分を盛り込みすぎないように気をつけました。作品から少しでも趣を感じて頂けたら幸いです。

京田辺市教育委員会賞

香具山／竹多恵（京田辺市）

歌二首を万葉集より選び書きました。一首目は大伴家持、二首目は柿本人麻呂が作者です。悠久の大地に霞がたなびく、静寂の中でのゆっくりとした時の流れを表現しようと制作しました。



講評

本年も力作が集まり、毎年この部門の実力は底上げされている印象です。本年は漢字作品の応募が少なかったですが、市長賞に選ばれた縦作品は構成される4行が実に有機的に絡まり合って造形に無理がない。かなり枚数を書き込んだであろう力作で、今後も大変有望な作家と申し上げることが出来る。

教育委員会賞の作品は、文字の大小と墨色の変化が美しく、行間の白が大変爽やかに新鮮。後半の収め方も上手に仕上がった。

芸術家協会賞は、縦画が生命感を帯びていて、筆を引く際の肘の使い方が上手である。落ち着いて中にある躍動感も見逃せない。

文化協会賞は縦の大きな紙面を実にセンス良く切り取って1行目、2行目の間の取り方が秀逸であった。

今回はレベルが高くどの作品もトップになる資格のある作品だった。

審査員 日比野博鳳

講評

穏やかな仮名の作品群はとても柔らかくほのぼのとした印象を受けました。その中で市長賞の漢字四行作品は、その線の強さ、墨気の満ちた雰囲気がとてもすばらしく、その迫力は本賞に値するものでした。

教育委員会賞の作品は、リズムが心地良く行間の余白が際立った秀作であります。

芸術家協会賞の作品は、スケールの大きい悠然としたものでした。

文化協会賞の作品は、縦の形式を生かして行の流れの美しい練られた構成がすばらしいと感じました。

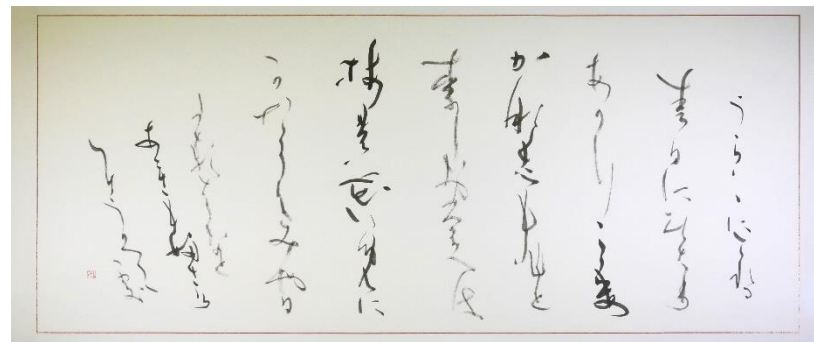
全体を通して諸々工夫を凝らした作品が多く感心しました。ここに線や字形の更なる吟味を重ねていただき一層練度の高い作品を目指していただければと思いました。

審査員 尾西正成

京田辺芸術家協会賞

夢／角ふみ（京田辺市）

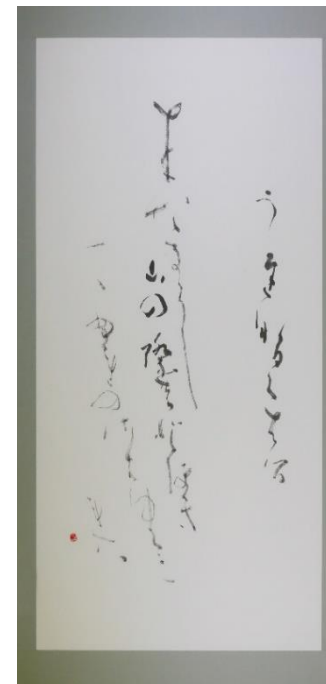
万葉歌人の心情が花鳥に込められた歌を、文字の流れや墨色の変化、余白の美を意識して制作しました。



京田辺市文化協会賞

春／中西智美（京田辺市）

万葉集の一首を縦に書きました。墨の濃淡や文字の大小、筆線の細太から出る文字間や行間の変化を意識して、筆を動かし作品を制作しました。





京田辺市長賞

夕映え（熊本県宇土市）／町田譲（京田辺市）
夕映えする有名な有明海の写真です。潮が引いた海岸に美しい曲線美の砂紋が現れる夕日の一番きれいな時を選んで写した作品です。



京田辺市教育委員会賞

野に生きる空の王者（滋賀県）／
三上喜範（京田辺市）
絶滅危惧種のニホンイヌワシは国内で500羽程度が確認されており、伊吹山では1ペアが棲息している。イヌワシは森林生態系で食物連鎖の頂点に立ち、空の王者と呼ばれている。数少ない猛禽類、野に生きる様を撮影した。



京田辺芸術家協会賞

残り柿（宇治田原町）／北村正博（京田辺市）
小雪が舞い散る朝、尖った杉の木々達が雪化粧していた。しばらくすると、朝の光が射し込み、残り柿を赤く輝かせた。



京田辺市文化協会賞

雪の浄瑠璃寺（木津川市）／前野比登志（木津川市）
五十数年前に、小学校の遠足で訪れ、担任の先生が写してくださった白黒写真の記念撮影を思い出すような、モノトーンの雪の浄瑠璃寺をストロボを発光させ、雪が降っているのを表現した作品です。

講 評

コロナ全盛時代、コロナと高齢を理由に作品作りが減る傾向も一部では見受けられる中、当市展に於いては応募点数も減る事もなく又作品の質の向上も見られ、上位作品を選ぶのに少し迷いました。選外にも優れた作品が多々有りました。市長賞の作品は有明海の定番の写真ですが、最もベストなタイミングに撮っておられてとても美しいと感じました。教育委員会賞のニホンイヌワシは数少なく見事な作品で、ピント他申し分ありません。芸術家協会賞の残り柿は、バックの杉木立の雪に映えて柿の作品のお手本の様ですね。文化協会賞の雪の浄瑠璃寺は定番の位置に三脚を構えています、とても良い条件の時に撮っています。この場所、タイミングを良く知り尽くしておられる様です。

審査員 山本一